

2010年3月15日

夕張レポート<第16回>

～平成21年度タイムリー研修・冬PART1～

平成22年2月22日から26日まで、都の若手職員10名は、平成21年度タイムリー研修「地域での活動を通じて都政を考える(第2回)」を夕張市で受講しました。

昨年6月のメロン農家のお宅での農作業体験などに引き続き、今年度2回目となる今回の研修では、高齢者宅や地域施設での雪かきや、夕張国際ファンタスティック映画祭の運営支援などを行いました。

2月上旬にはマイナス24度の寒さとなった夕張市。研修期間中も1メートルを超える積雪でした。この厳しい自然状況の中、研修生は何を感じてきたのか。2回にわたって研修生のレポートをお届けします。

今回は5名の研修生のレポートをご覧ください。



夕張市役所にて、藤倉市長を囲んで

総務局:Wさん

この研修に応募したのは、報道では分からない部分も含めた夕張の厳しい実情の中に身を置くことで、夕張が抱える課題について考え、都職員としての視野を広げたいと考えたからです。

この研修では、除雪作業や映画祭の運営支援などの活動を通じ、市職員の方、地域の高齢者の方、映画祭の運営スタッフの方など多くの方と交流することで、夕張の現状に対する認識を深めることができました。そして、地方自治のあり方や公務員の役割について熟考する機会を得て、「都政は都民の皆様のためのもの」という当たり前の感覚が大事なのだと再認識しました。

私が特に強い印象を受けたのは、財政再建に取り組む市政の現状について市役所で説明を受けたときの、「住民生活の安全・安心を維持できなければ、住民が(夕張に)住む意味がない。」という、市職員の方の言葉です。

財政破綻後の夕張市役所では、徹底的な職員給与削減により職員が大量に退職した結果、最低限の行政サービスの維持運営すら困難な状態に陥っています。財政再建団体となっても、住民の方が生活するために必要な業務は残りますが、都庁や道庁などからの派遣職員の存在がないと市政を運営できないのが現状であり、技術系職員の深刻な不足や新規に職員を採用できないことなど、色々な問題を抱えているとのことでした。

行政サービスを維持するには、それを担うための人材の確保が必要となります。都民の皆様へ安全・安心な生活を提供し続けるために、今後も東京都は、危機意識と都民の方に対する責任感を常に持ちながら、財政運営や人材育成に取り組まなければならないと強く感じました。



研修2日目 高齢者宅での除雪作業と老人福祉会館での歓談

そして、私も、夕張の冬の寒さと雪の重さを忘れずに、「都民の方のためにどのように行動すべきか。」ということを念頭に置きながら、良い仕事ができるよう頑張りたいと思います。

す。

最後に、この研修の実施にご協力いただいた全ての皆様に、改めてお礼を申し上げます。貴重な機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

環境局:Xさん

地域住民の方の生の声を聞くことで、私自身が行政サービスについて見つめ直すきっかけにしたいと思い、本研修に参加しました。

研修で特に印象深かったことは、高齢者のお宅等の除雪作業です。研修生には雪かきの経験者がほとんどおらず、効率的に作業が進まなかったとは言え、研修生全員で取り組んでも相当な時間を要しました。

また、住民の方が実際に屋根から雪下ろしをしている作業を見ていると、雪の生活が危険と隣り合わせであることを痛感しました。住民の方が行政に望むこととして、除雪作業を上位に挙げた理由を、身をもって実感しました。

このような慣れない私達の作業に対し、除雪作業で伺ったお宅の方は、「窓が明るくなったよ。ありがとうね。」と涙を流しながら感謝してくださりました。こうした住民の方との直接の対話の中に、行政サービスについての答えを導くきっかけがあるのではと思いました。

本研修を通じて、目先の利便性の追求だけではなく、住民の方が必要としていることを汲みとり反映させていくことが行政の基本であると感じました。

住民や市職員の方から「再生」にかかる期待や強い意気込みを感じた5日間でしたが、今回、財政再生計画に行政サービスとして市民の方の声を反映させたことは、まさに「再生」への一步を踏み出したといえると思います。



研修3日目 老人福祉会館での除雪作業

本研修での経験をもとに、都民の目線を意識しつつ、都民の皆様に都政への理解をさらに深めていただけるように業務に取り組んでいきたいと考えています。

最後に、本研修の受講に際しご尽力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

水道局:Yさん

財政破綻から3年経過した自治体及び住民の方の現状を直に体験するとともに、住民の方への貢献を行いたいと思い、本研修に応募しました。

今回の研修は、全てが初めての体験でした。冬の北海道、夕張史の勉強、雪かきや映画祭の運営スタッフ。そして、都外へ出て行政体・住民双方の方のお話を聞けるというのは大変貴重な機会でした。

「破綻したから。この給料では食べていけないから。」という理由で周りの同期が辞めていくなか、果たして一緒に辞めていいものなのだろうかという思いで、役所に留まり職務を続ける若手の職員の方。

一方で、夕張で一人暮らし、子供夫婦は都会に住んでおり、一緒に住もうと言われている高齢者の方。長年生きてきた夕張の地を離れたくないという気持ちもあり、「私はどこで死ねばよいのだろうか?」と問いかけられた時は、あまりの言葉の重さに何も答えることができませんでした。

折しも、研修のさなかに市が策定していた「夕張財政再生計画」の最終案が固まり、夕張再建の礎ができました。新しい筋道が出来た瞬間に彼の地にいたことは、何か縁深いものを感じました。

高齢者の方のお宅で雪かきをさせていただき、達成感から来る喜びと、お住まいの方から大変に感謝され、奉仕者としての喜びも得ることができました。そして、局の垣根を越えてこの研修で出会えた仲間が、今後ずっと生きていく大きな財産です。

大変多くものを今回の研修で得ることができました。今後の都政人生の中で活用していきたいと考えております。



研修3日目 高齢者宅での除雪作業

産業労働局:Zさん

研修に参加した動機は、夕張市の現状を肌で感じるとともに、直接市民の方と接することで、行政のあるべき姿を見つめ直したいと思ったからです。

今回の研修では、高齢者のお宅等での除雪作業のほか、映画祭の運営支援を行いました。

除雪作業は想像以上に重労働で、高齢者の方ではとても困難な作業であり、日々の暮らしに直結する重大な課題であると感じました。また、映画祭については、市民参加型の特色を活かしたアットホームな雰囲気があり、製作者側も自ら楽しめる映画祭だと思いました。

研修を通じ、印象に残った言葉があります。それは、映画祭担当スタッフからの「市民が一つになるのは難しい。」という言葉です。一つの目標・目的を実現するためには、行政と住民とは互いを尊重し、協調し合いながら自立していくことこそ、行政のあるべき姿だと痛感しました。

夕張市の現状。それは、もちろん財政再建団体であることは事実ですが、それよりも、“街を元気にしたい、この活動を多くの人に知ってもらいたい”という力強さがありました。また同時に、“人々の集いの場、助け合いの機会を残すべきである”と感じました。



研修4日目 映画祭会場での館内誘導(小栗旬さんも来場され、大変に盛況でした。)

5日間という短い期間でしたが、貴重な経験をし、数多くのことを勉強させていただきました。本当にありがとうございました。今後は、この目で見た“夕張の今”を多くの人に伝えていきたいと思います。

水道局:aさん

市の財政破綻に直面する地域の実情、そこで真に必要とされるものは何か、行政の役割とは何か、自分自身の目で見つめてみたいと思い、本研修への参加を希望しました。

「過疎」と「高齢化」。本や資料で踏まえていた事実であるものの、夕張市にいた5日間に見聞きしたことから、想像以上に大きな課題だというのが大きな実感です。さらにこの街は、322億円という赤字解消への厳しい道のりを進んでいかななくてはなりません。

この研修中、考え続けたことが2つあります。一つは、「財政が厳しいことで行政サービスに格差があっていいのか。」という市職員の方の言葉。もう一つは、炭鉱と共に発展してきた夕張市について「炭鉱の役割を終えた地域がどのように生き残るのか。」と語った講師の方の言葉です。



研修4日目 映画祭の飾り付け作業(幸福の黄色いハンカチの制作)

どちらの問いかけも、その答えをすぐに用意できるものではありませんが、地域の再生には、事業見直しや財政改善と同時に、地域の在り方自体の再考が必要なのだと強く感じました。

私は、今回の研修を通じて、行政の仕事は「その先にどのような地域をつくりたいのかを見据えること。」だという認識を新たにしました。またそのためには、夕張市民の方が自らの力で動き始めた映画祭のように、住民と行政が共に歩いていく姿勢が大切であり、私達の仕事もまた、都民の皆様と共に作るものであるという意識を高めることができました。

最後になりましたが、本研修を支えてくださった皆様に感謝するとともに、この経験をこれからの糧としていければと思います。